



小室たかえの議会報告

(2021年9月定例議会から)

<https://komuro.kanagawanet.jp> TEL080-9152-3158



子どもの権利について考える

子育て・子育てを、まちぐるみで応援できるように

保育園再編計画と 子育て支援の充実も図るべき

南こども園 子育て支援施設併設にならず

森崎保育園とハイランド保育園の再編による(仮)南こども園の建設地が久里浜公園プール跡地に決まったことから、その在り方について本会議で質問しました。

公立保育園再編実施計画では、「公立保育園を再配置・建替えする場合、(中略)幼保連携型認定こども園と子育て支援センターの機能を併せ持った施設として整備します」「子育て支援のランドマーク的な拠点施設として認知される施設」「子育て支援や幼児教育・保育を総合的に提供する

など、子育て支援サービスを充実させます」としています。しかし、(仮)南こども園は幼保連携型認定こども園機能のみの施設となることですが、質疑を通して明らかにになりました。建設費抑制との理由です。

久里浜地域の子育て支援施設である「愛らんど久里浜」は、利用者が多く手狭です。こども園に併設することでニーズに合わせた広さの実現を期待していた私は、市の考えを質しました。こども育成部長は「(愛らんど久里浜の)場所については、(現状の)久里浜行政センターの中ということに固定せず、状況を踏まえながら、また検討する」と答弁。一方、「いろいろなツール、あるいは民間の力もお借りして、行っていききたい」という民生局長の答弁

実施しました！ 「子どもの権利」についての懇談会

市議会では、子どもの権利検討協議会で子どもの権利の条例を策定しています。市民の皆様の声を反映させるべく、市議会主催の懇談会を実施しました。34名の参加がありました。

前半は、春光学園園長、横須賀市児童相談所所長による講演会。後半は、参加者が6つのテーブルに分かれ、協議会の議員と意見を交わしました。子育て中の方、子育て支援団体の方、学童保育関係者、幼稚園関係者、元教員、助産師、医師など多彩な顔ぶれで、各々の立場から様々なご意見をいただきました。45分間はあっという間で、もっと時間が欲しかったほどです。

子どもの権利

について、ご意見をお聞かせください！

よこすか子どもの権利を守る条例(案)に関する懇談会

横須賀市議会では、(仮称)よこすか子どもの権利を守る条例の策定を目指し、協議を重ねています。条例案に当たり、議員がその内容の報告をさせていただき、広く市民の皆様からのご意見を伺う機会を設けます。また、下記のとおり、講演を予定しています。積極的なご参加お待ちしています！

【講師】横須賀市議会の現状と課題 横須賀市こども育成部長 藤原 隆
「児童相談所の現状と課題」 児童相談所長 春光学園長

11月7日(日)
10:00～12:00

場所：まなびかん(ウエルシティ南プラザ5階) ※感染状況によりオンライン開催となる可能性があります。

新型コロナウイルス感染症防止対策のため、事前申込制となります。
申込・詳細は横須賀市議会ホームページをご覧ください。 ※申込期間 2021.9.30～10.22(日)

主催：横須賀市議会
お問い合わせ：横須賀市議会議員秘書室
TEL 046-822-8461
E-mail csa@yokosuka-city-council.jp

は唐突に感じます。愛らんどのような子育て広場などが、民間の行うものも含め、地域に複数あるのは良いことですが、はたして市民協働での子育て支援を今後どのように行っていくのか、担う市民を育てることも大事です。計画の変更は遺憾です。子育て支援が後退しないよう注視していきます。

愛らんど 新たな文庫の設置にあたり 現場に合わせた配置を要望

市民からの寄付金を活用し、愛らんど(全6か所)に新たに文庫を設置するための補正予算案が提出されました。書架(絵本50冊)、子ども用テーブルと椅子4脚を配置するとのこと。



当初、各愛らんどに同じものを配置するとしていましたが、広さがそれぞれ異なることから、狭小な現場においては安全性への懸念があります。常任委員会での質疑を傍聴しましたが、現場の状況をさらに把握しようとするような答弁はありませんでした。安全性のみならず、無理解な文庫の設置は子育て広場の質の低下にも繋がりがねないと考え、反対討論を行いました。賛成多数で可決されましたが、その後、担当課から現場への聞き取りなどが行われ、愛らんどごとに選んだ書架等が配置されるなど改善につながりました。

この文庫は11月16日に無事開設されました。愛らんどのアドバイザーと児童図書館が選んだ選りすぐりの絵本が並んでいます。今後も子育て支援の充実を進めていきます。

基地強化の容認は 市民生活の安全性等に疑問

総務常任委員会で基地対策について質問しました。米海軍横須賀基地の浦郷弾薬庫で、棧橋の建設工事が進められています。現在は、弾薬等の運搬は沖泊まりの艦船と弾薬庫の間をバージ船により行っています。新たな棧橋設置により、艦船が弾薬庫前に直接停泊できるようになります。横須賀市の基本計画には、「可能な限りの基地返還」が謳われていますが、この工事の容認は基本計画の考え方に逆行するものではないかと質しました。

特命参与の答弁は、基本計画に記載の「国際情勢の推移や防衛施設の利用状況を見極め」の部分重視する考え方。基地の安全な運用は当然のことであるとして全く疑われないのが市の姿勢であることは大きな疑問です。基地内で扱う弾薬の種類についても市は把握していないことも明らかになりました。市民の命と暮らしを守るのが市の仕事です。これでは、市民生活の安全性に対して疑問であると言わざるを得ません。これからも引き続き、市の考え方を質していきます。

猿島にトイレ建設 2億3000万円！

猿島への集客のために、新しいトイレを作ることになり、費用は約2億3000万円です。島なので、資材の運搬に多額の費用がかかるとのこと。トイレは今もありますし、おみやみ集客をせずに猿島の自然や歴史遺産を大切に考え、反対しましたが賛成多数で可決されました。

